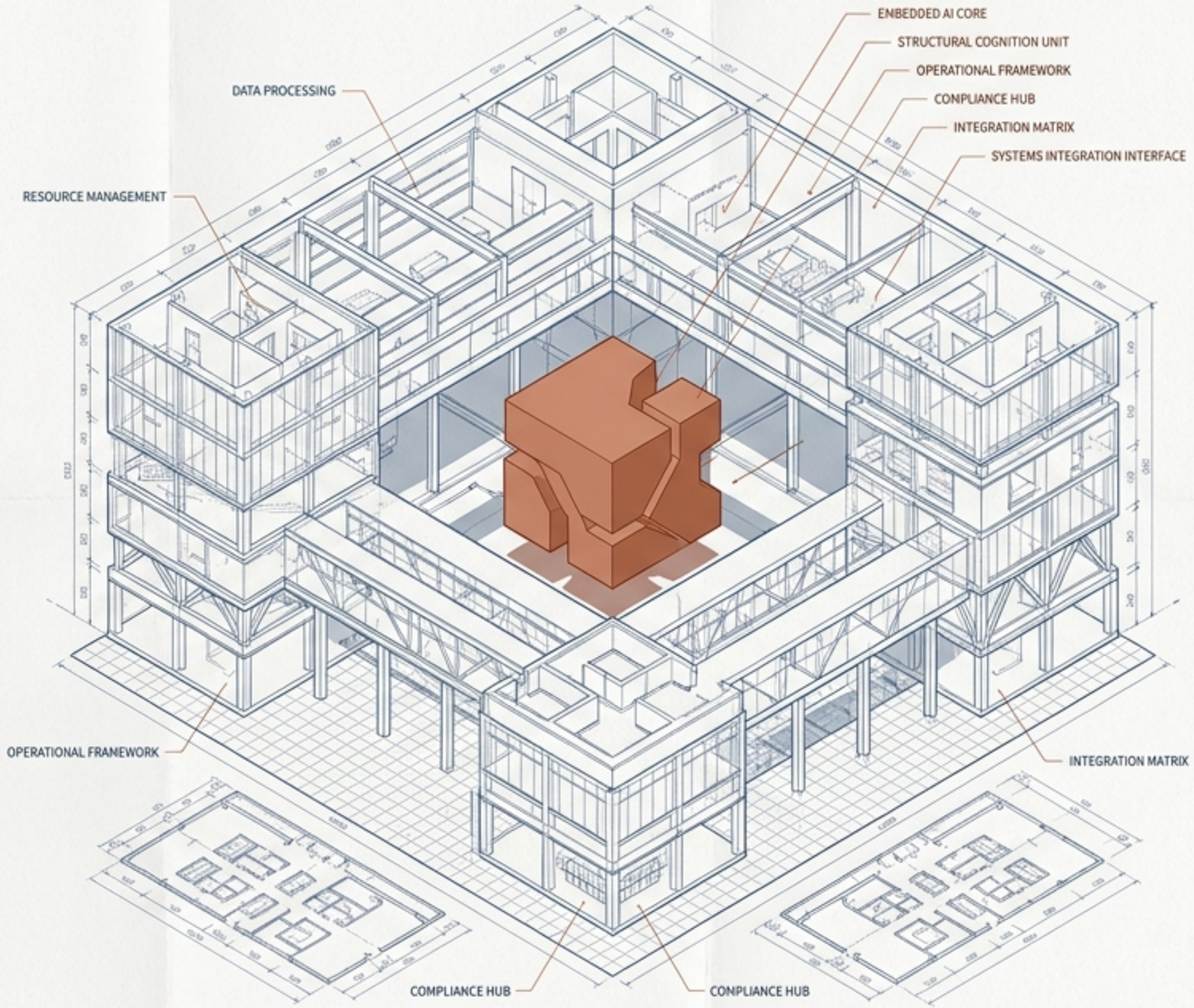
日本生成AI実装「第2フェーズ」の実像

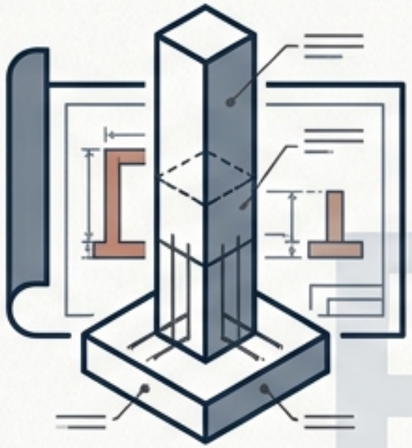
PoCから「実務システムの再設計」へ —— 建設・SI・銀行・製薬の最前線とファクトチェック

2026年5月現在。メディアの過剰なハイプを削ぎ落とし、4大産業に埋め込まれつつある「真の構造変化」を解剖する。



Executive Summary: ツールから「基盤」への移行

Phase 2



大局の真実

生成AIは「個人がこっそり使う便利ツール」の段階を終了。現在は**契約、業務フロー、役割定義、データ基盤の構成要素**として組織に直接織り込まれるフェーズへ突入。

4大産業の変革

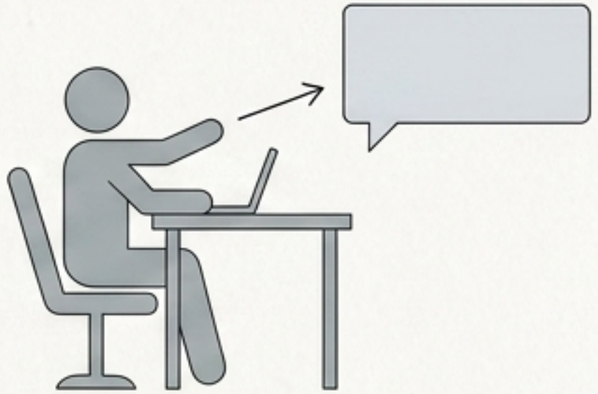
- 建設：**特記仕様書**による**契約・ルール化**
- SI：要件定義からの**自動化**と**人月脱却**
- 銀行：**組織図**に組み込まれる**AI行員**
- 製薬：24/365自律稼働の**研究自動化基盤**

情報の解像度

「**実務標準化**」の方向性は歴史的変化を正確に捉えている。しかし、メディア報道の「**効果数値・適用範囲**」には著しい混線があり、冷徹なファクトの切り分けが不可欠。

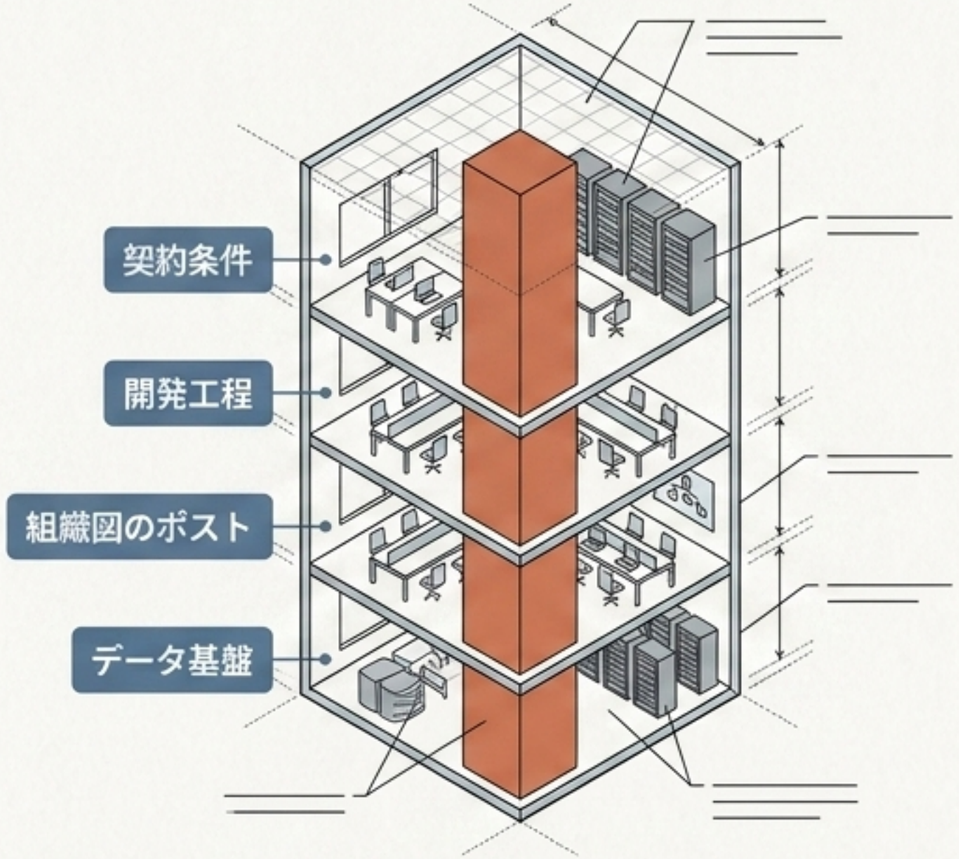
「どう使うか」ではなく、「どこに組み込むか」

Phase 1: Personal Tool



目的:	個人の業務効率化（PoC中心）
形態:	チャットUIによる外部ツール利用
ルール:	現場の自主的工夫・黙認

Phase 2: Systemic Redesign



目的:	実務システムと組織構造の根本的再設計
形態:	API/エージェントによる業務プロセスへの直接統合
ルール:	契約図書、組織ロール、公式な評価軸としての明文化

【建設】ルールの入口 ── 「黙認」から「契約図書への明記」へ

公共事業の次世代知識基盤へ

発注
特記仕様書への明記。利用範囲を協議

受注
「生成AI利活用計画書」の提出

作業
権利処理・注記ルールの徹底

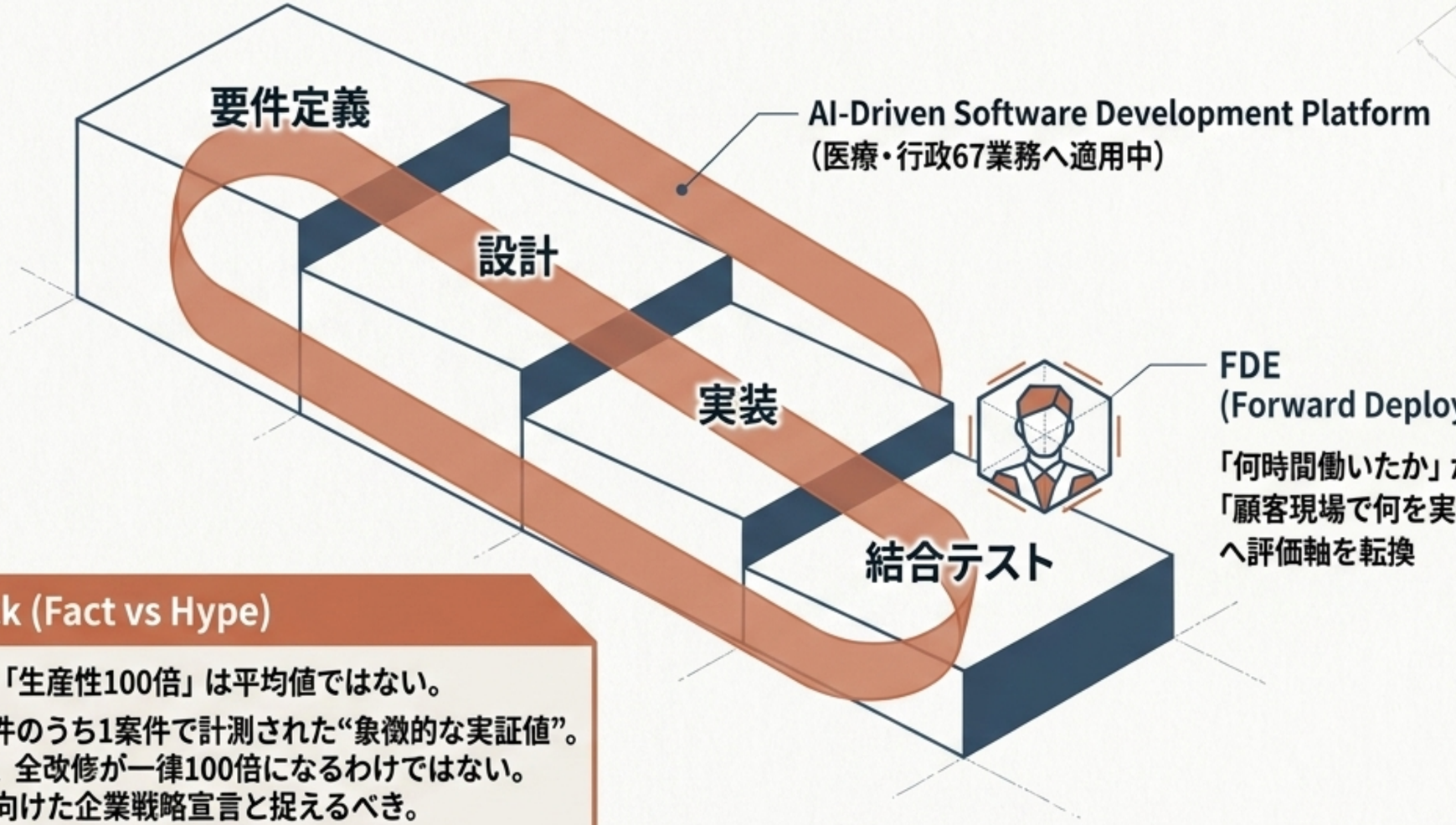
納品
AIが読みやすい構造化文書の蓄積

⚠ Reality Check (Fact vs Hype)

× 「全国の直轄土木業務へ即時一斉適用」は先走り。

○ 中心は「直轄の建設コンサルタント業務」。一方で、東北地方整備局のDXプランやデジタル庁の政府職員向けAI「源内」（2026年5月末大規模実証）（2026年5月末大規模実証）など、発注者側の内部利用拡大が並走しているのが実態。

【SI】自動化がもたらす「人月モデル」からの脱却宣言



AI-Driven Software Development Platform
（医療・行政67業務へ適用中）

FDE
(Forward Deployed Engineer)

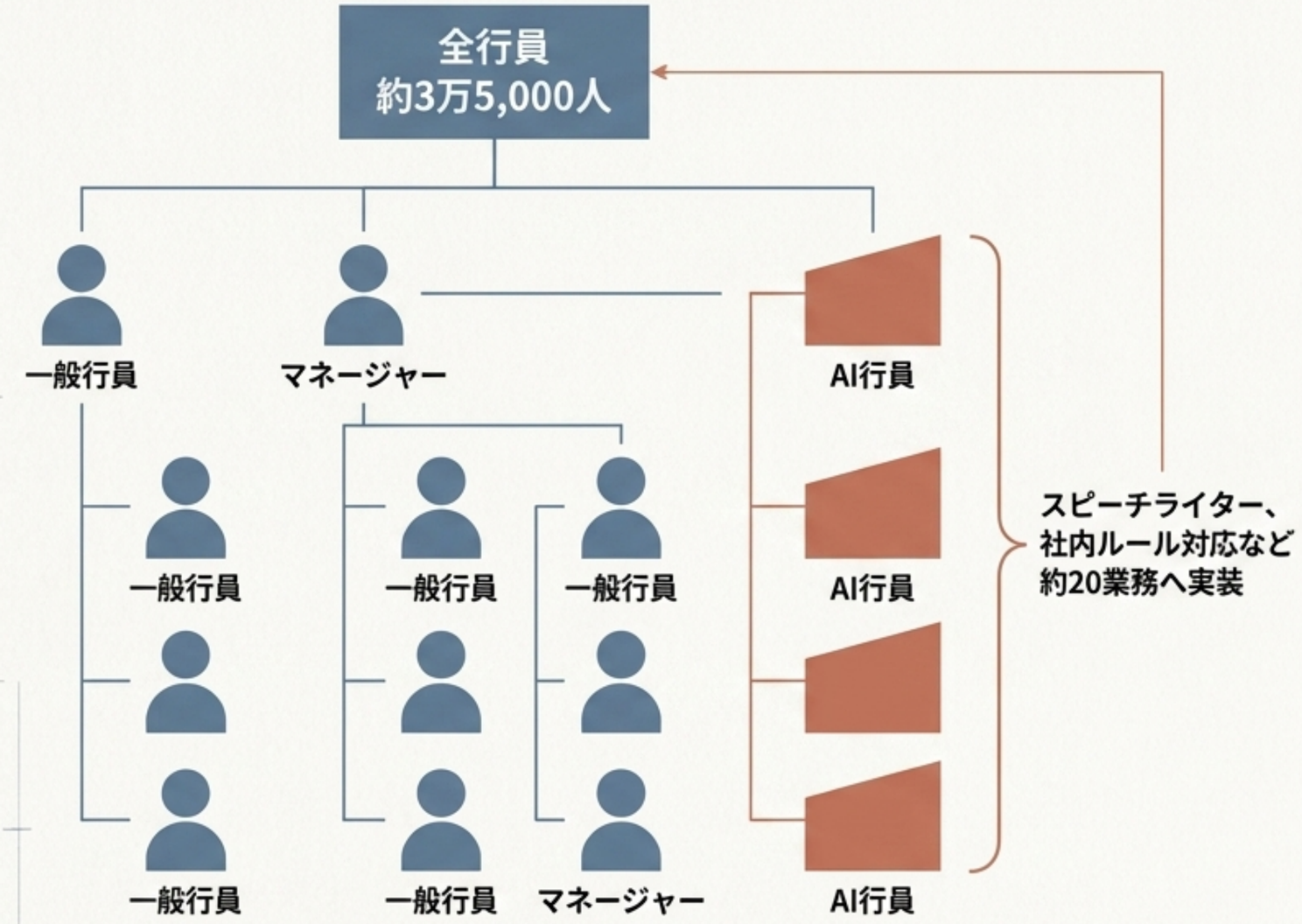
「何時間働いたか」から
「顧客現場で何を実装・価値化したか」
へ評価軸を転換

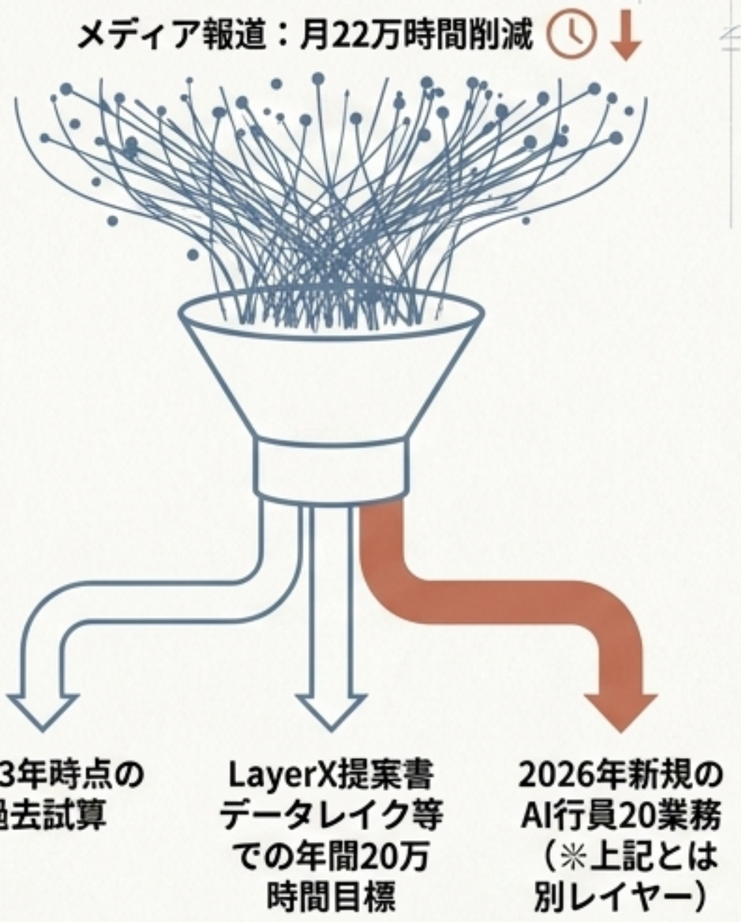
Reality Check (Fact vs Hype)

× 「3人月→4時間」「生産性100倍」は平均値ではない。

○ 約300件の変更案件のうち1案件で計測された“象徴的な実証値”。
方向性は正しいが、全改修が一律100倍になるわけではない。
人月モデル脱却に向けた企業戦略宣言と捉えるべき。

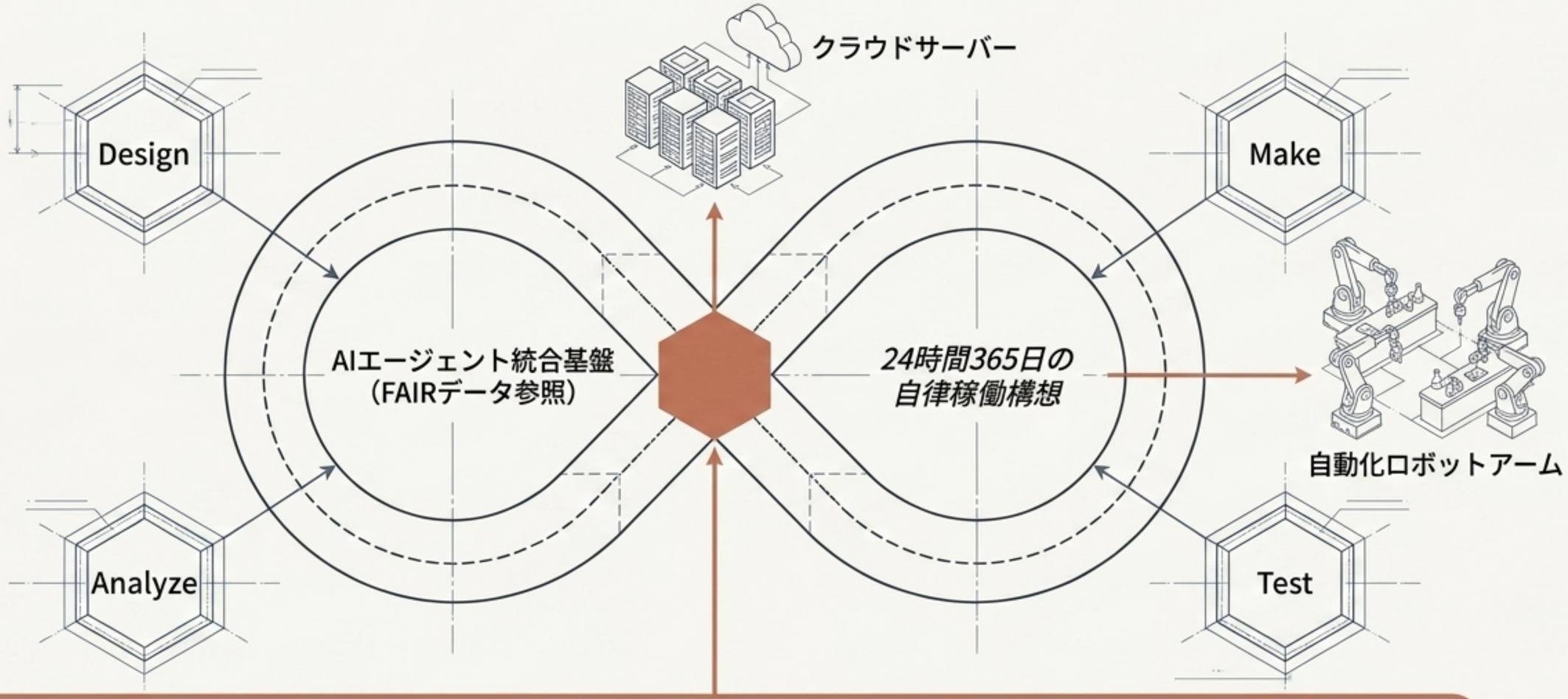
【銀行】「ツール」ではなく、組織の「ロール（役割）」としての配備





⚠ **Reality Check:** 情報レイヤーが束ねられて報道されている。過去数字と新規施策の混同に注意。

【製薬】自律・統合される24/365の研究自動化基盤



⚠ **Reality Check (Fact vs Hype)**

× 「既に全面本稼働」「4年短縮・1薬600億円減」は不正確。

○ 現状はスマートリサーチラボ等を通じ「2026年の運用開始を目指す」移行段階。また、短縮数値は京都大学による AI創薬全般の一般的試算であり、本個別案件の確定見込みではない。

The Phase 2 Implementation Matrix

業界	Phase 2の焦点	具体的な実装モデル	現実のフェーズ（2026.05）
建設	契約・ルール	生成AI利活用計画書・特記仕様書	直轄コンサル業務を起点とする制度化の入口
SI	開発工程・評価軸	AI-Driven Platform・FDE	一部業務システムでの実証と展開中
銀行	組織設計・ポスト	AI行員・全行員3.5万人への配備	3メガバンク全社配備進行中（※効果指標は要整理）
製薬	自律インフラ・基盤	DMTAサイクル自動化・AI統合	本格稼働に向けた移行・構築中

Synthesis Insight: 全業界において、AIが「個人」を離れ、「契約」「評価」「組織」「インフラ」というシステムレベルに強固に結合され始めた。

Fact-Check Dashboard: メディア報道と実態のギャップ

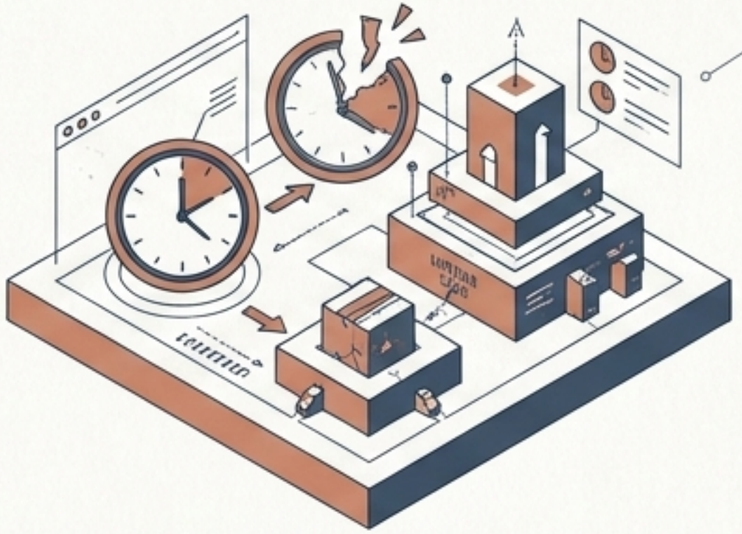
報道の期待値	【建設】 進捗度: 中	混線度: 中	冷徹な実態
	全国一斉展開の誤認に注意。内部利用と並走中		
報道の期待値	【SI】 進捗度: 高	混線度: 低	冷徹な実態
	一次資料は明確。ただし100倍効率化は象徴値		
報道の期待値	【銀行】 進捗度: 高	混線度: 高	冷徹な実態
	方向性は一致。しかし過去の削減時間数字と新規施策の混同が著しい		
報道の期待値	【製薬】 進捗度: 中	混線度: 高	冷徹な実態
	稼働「目標」と「完了」の差。京大の一般試算の流用に注意		

Bottom Line Evaluation: 記事の大枠の方向性（歴史的変化の把握）は極めて妥当。
しかし、個別数値（銀行・製薬）の一般化には大幅な補正が必要である。

Strategic Blueprint: 明日からの設計指針

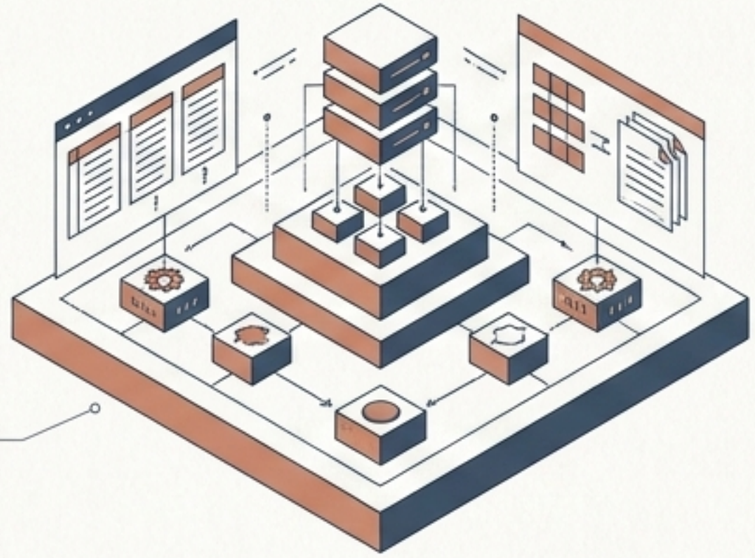
1. 'Try' から 'Embed' へ

AIを「どう便利に使うか」を検証するPoCの時代は終了した。自社のどの業務プロセス、契約条件、役割（ポスト）にAIを『埋め込む』かをハードワイヤリングする設計へ移行せよ。



2.「人月・時間」評価の終焉

SI領域のFDEが示すように、単純な時間短縮の計測は意味を失う。自動化の先では、「顧客現場で何を実装し価値化したか」への抜本的な評価指標の再定義が不可避となる。



3. 知識基盤（Data Infrastructure）の構築

製薬のFAIRデータ、建設の構造化文書蓄積に見られるように、AIエージェントが自律的に読み解くための「クリーンなデータ基盤」の整備こそが、Phase 2の勝敗を決定づける。

1. 'Try' から 'Embed' へ

AIを「どう便利に使うか」を検証するPoCの時代は終了した。自社のどの業務プロセス、契約条件、役割（ポスト）にAIを『埋め込む』かをハードワイヤリングする設計へ移行せよ。